はじめに

1　「瑞穂区の自然を学ぼう」について

このプログラムは、大きく分けて、学習する場所の紹介をする部分と学ぶ教材に分かれています。

学習する場所は、公園や神社、学校などから各学区１箇所ずつを選び、山崎川を加えた計 12 箇所をこのプログラムの中で紹介しています。

教材部分は、小学校高学年の方でも使っていただけるように、用語についてもできるだけ分かりやすくし、漢字にもルビをふりました。

【使い方の QA】

Q1　区内のどこへいけばいい？

A1　８ページの地図「自然を学ぶ場所」を見ると、近所の対象地が探せます。行きたい場所が、ある程度決まったら、その場所の紹介ページを見ていただくと、そこにどんな植物が生えているかなどが分かります。

Q2　自然を学ぶってどんなことをすればいい？

A2　25 ページから始まる教材をパラパラと見てください。興味のあるものが見つかったら、その教材を学べる場所を 24 ページの一覧表から探して、その場所へでかけましょう。

Q3　もっと、いろいろ知りたい。誰か教えてくれる人がいるとうれしいんだけど？

A3　「お役立ち情報」のページに参考になる本や問い合わせ先がつけてありますので参考にしてください。

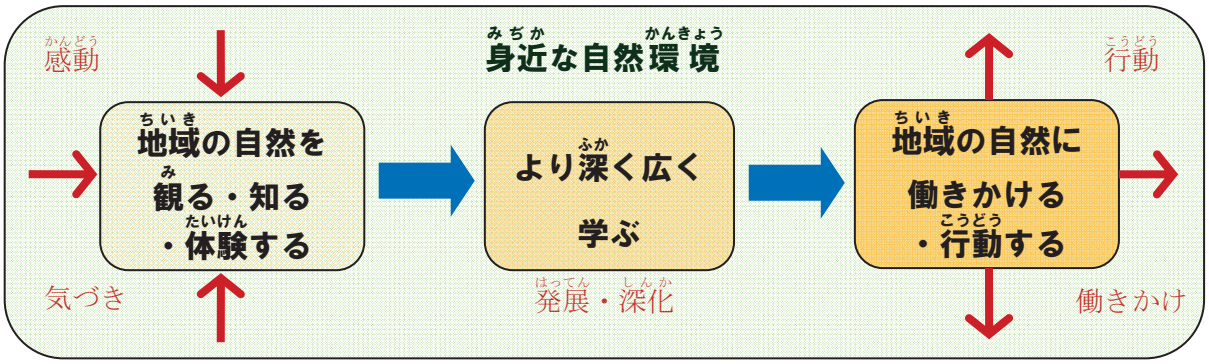
２　学ぶ目的

自然体験型環境学習は、①観る・知るから、②学ぶ・調べる、そして③働きかける・行動する、へとステップアップしていくことが重要です。また、自然体験は、遠くにある自然で行うのではなく、身近にある自然で行うほうが、より望ましいと考えます。

名古屋市でも、最近まで身近にあった、ため池・小川・湿地などの水辺、田んぼ・畑などの農地、雑木林・竹林、草むらなどが、急速に少なくなりました。これらの身近な自然の中で、それまであたり前のように見られた生きものが、今では希少種となったり絶滅危惧種に指定されたりしています。

世界では、年間４万種の生きものが絶滅しているといわれています。私たちは生きものから多くの恵みを受けています。生きものが失われることによって、恵みを受けられなくなるという意味では、私たちは被害者です。一方で、私たちの日々のくらしが、環境を変え、そのことが生きものの絶滅を招いているのであれば、私たちは加害者でもあります。身近な自然と触れ合うことによって、生きものの減少や絶滅は遠くで起こっていることではなく、私たちの身近な所でも起こっていることを、知っていただきたいと思います。

自然体験型環境学習の目的は、単に自然環境の知識を身につけることではありません。地域の身近な植物や動物と直接触れ合うことで自然のすばらしさに感動できる感性（センスオブワンダー）を身につけ、そこから多くのことに気づき、より深く学び、自然環境の保護・保全・再生へと向かう行動（ローカルアクション）を呼び起こすところに目的があります。



自然体験型環境学習のプロセス

３　瑞穂区の自然環境と位置

名古屋市のみどり（自然環境）は、おおむね次の３つに分けられます。

① 西部の沖積平野に広がる河川や農地のみどり

② 中央部の名古屋台地、熱田台地、千種台地、御器所台地、笠寺台地などの洪積台地上に発達した社寺林などの歴史的なみどり

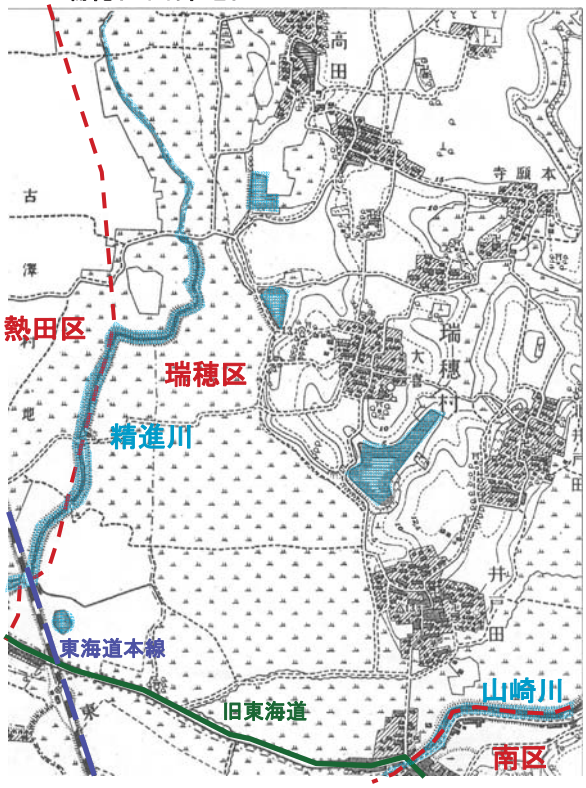
③ 東部の丘陵地に残る大規模な樹林地や、農地と一体になった里山のみどり

瑞穂区は、名古屋市の中央部にあって、②の洪積台地から③の丘陵地に至る東西に長い区域となっています。また、河川の少ない都市として知られる名古屋市ですが、瑞穂区には、西側の区境に新堀川、中央部に山崎川、南東側区境には天白川が流れています。

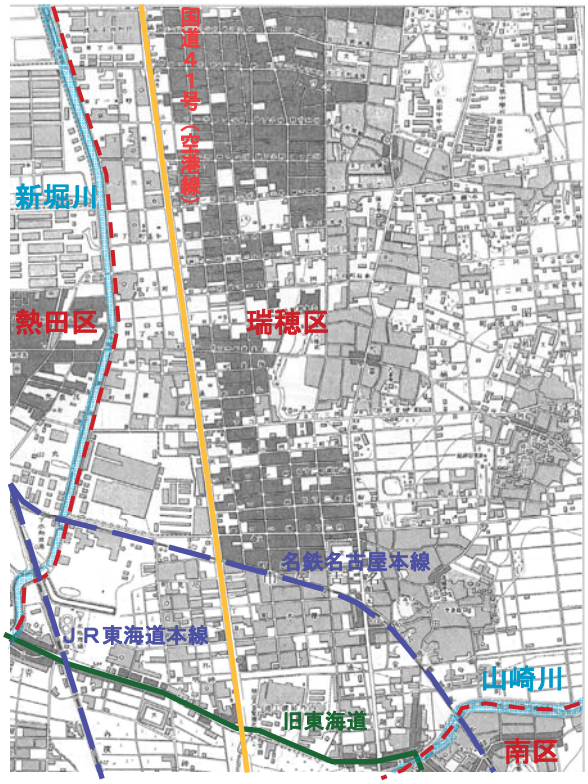
名古屋の緑の構造と瑞穂区の位置「花・水・緑なごやプラン」より

4　瑞穂（みずほく）区のうつりかわり　（出典：明治・昭和 東海都市地図 1996/11/20 柏書房株式会社）

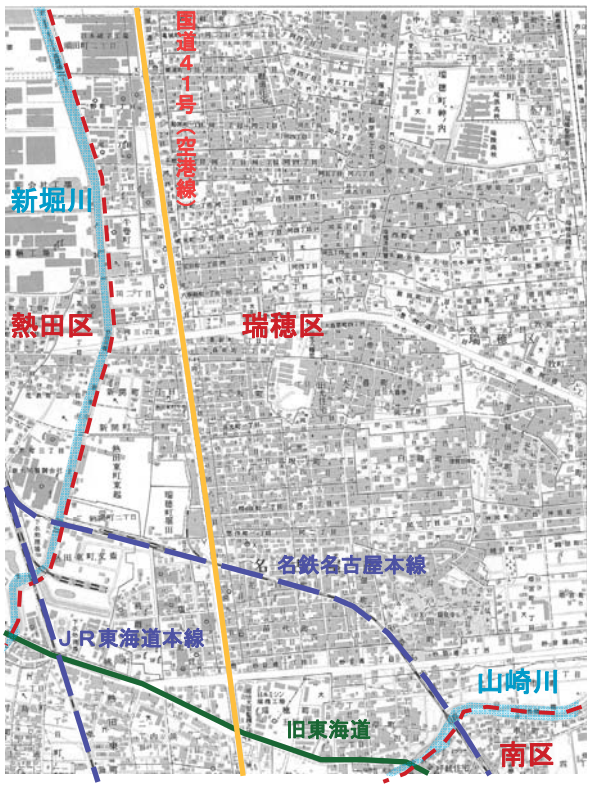
瑞穂区西部地区（みずほくせいぶ）



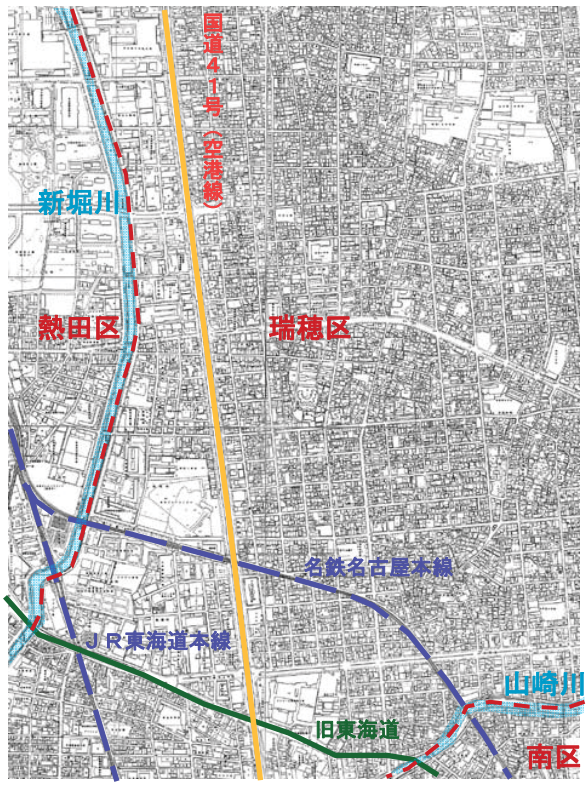
明治２４年（1891）



昭和１２年（1937）

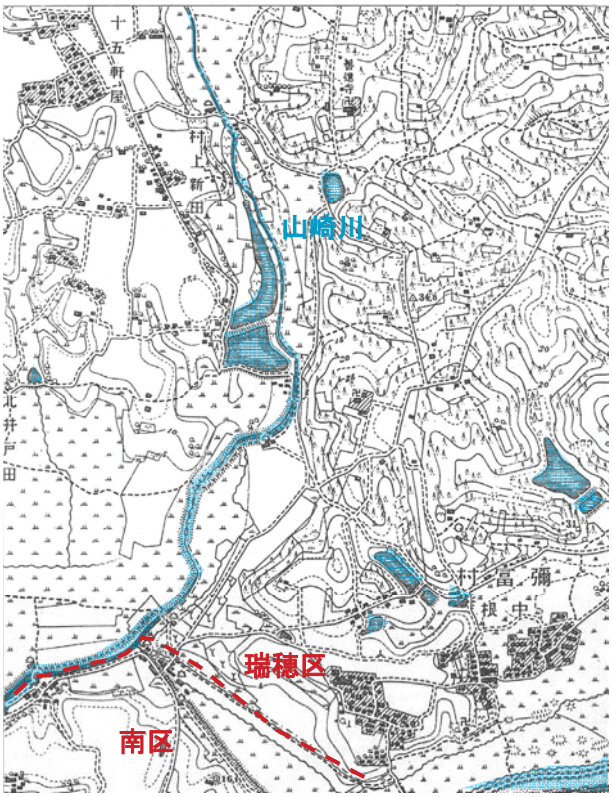


昭和２８年（1953）

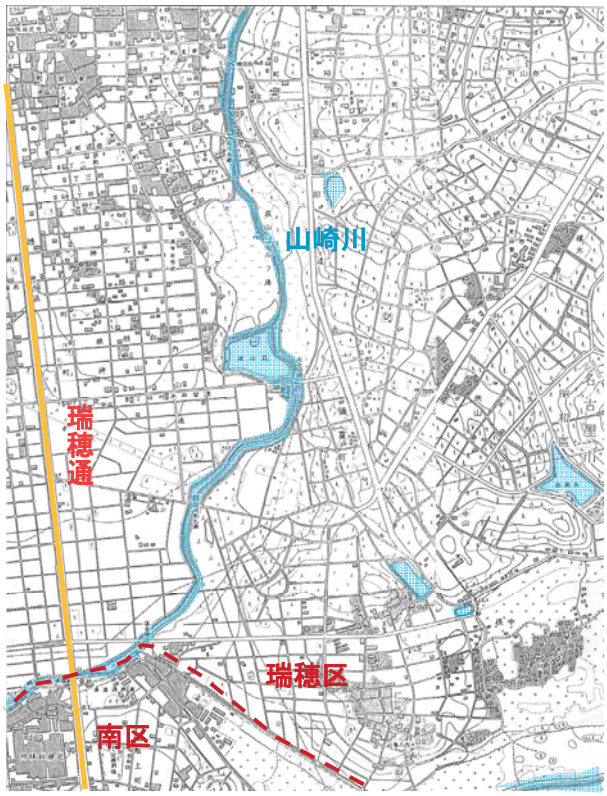


昭和６１年（1986）

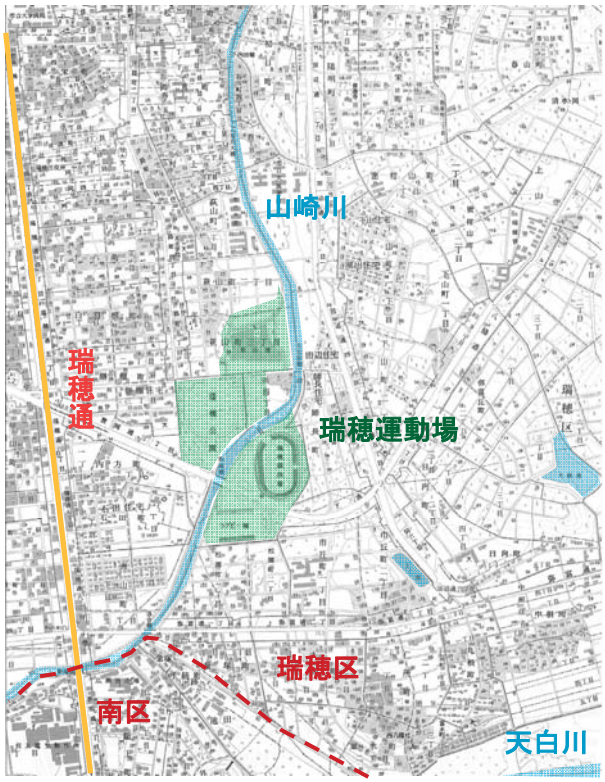
瑞穂区東部地区



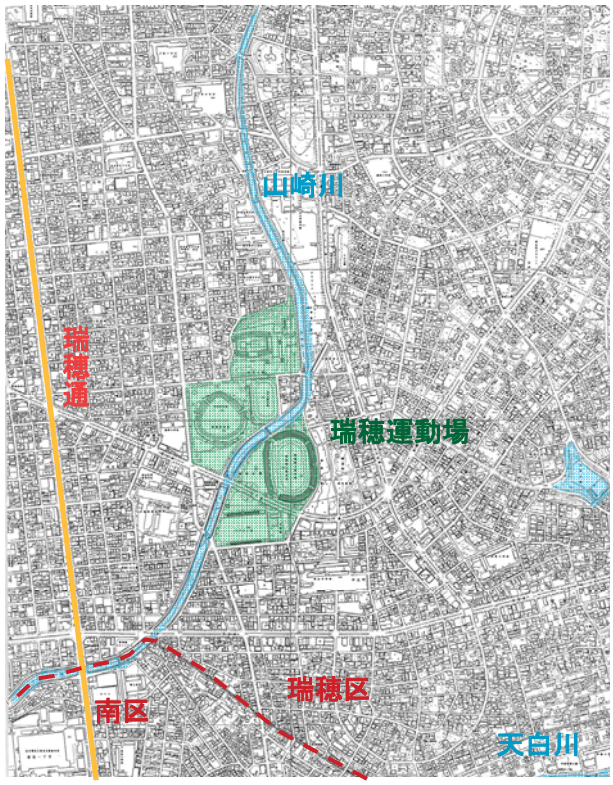
明治２４年（1891）



昭和１２年（1937）



昭和２８年（1953）



昭和６１年（1986）